

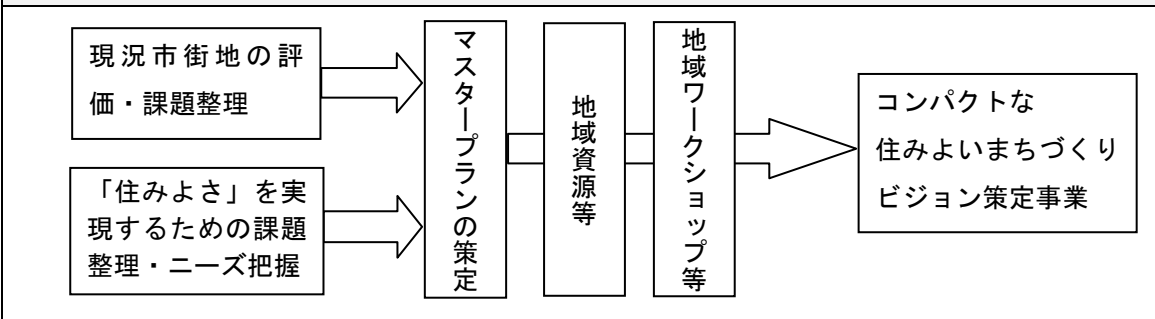
平成 24 年度特定地域再生事業費補助金事業の概要書

【テーマ：①-イ】

| | |
|--|---|
| 1 事業名 | |
| こそだ せだい す さくていじぎょう 子育て世代にとってコンパクトな住みよいまちづくりビジョン策定事業 | |
| 2 事業主体の名称 | |
| 竹原市（たけはらし） | |
| 3 新規・継続 | |
| 新規 | |
| 4 補助金事業の期間 | |
| 平成 25 年 2 月 ～ 平成 25 年 3 月 | |
| 5 特定地域再生事業費補助金の種類 | |
| 特定地域再生計画策定事業 | ○ |
| 特定地域再生計画推進事業 | |
| 6 要望国費 | |
| 7, 129, 500 円 | |
| 7 事業の概要 | |
| 【課題】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ◆ 昭和 55 年をピークに人口が減少し、昨今さらに人口減少・少子高齢化が進行しており、これに対する対応が急務。（補足資料 1） ◆ 就学前施設をはじめ多くの公共施設が築後約 40 年を経過しており、老朽化と人口減少等に対応した施設の再編。 ◆ 第 5 次総合計画（H21～30 年度）の目指す将来像「住みよさ実感 瀬戸内交流文化都市 たけはら」の実現に向けて取り組んでいる「住みよさ」の基礎固めと、人口減少（とりわけ社会減）に歯止めをかけるための取組の一体的・効果的な推進。 | |
| 【目標】 | |
| 子育て世代にとってコンパクトな住みよいまちづくり ～JR 竹原駅を中心とした徒歩圏（約 2 km）内（市街地）のまちづくり～ | |
| 【事業の概要】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ◆ 次の調査等を実施した上で、公共・地域の様々な資源を総合的に検討し、子育て世代にとってコンパクトな住みよいまちづくりを進めるためのビジョンづくりを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ○「コンパクトなまちづくり」に向けた現況市街地等の評価・課題整理（土地利用，居住環境，施設配置，公共サービス等） ○「住みよさ」を実現するための課題整理・ニーズ把握（子育て支援施策，居住環境，教育環境，地域コミュニティ等） ○「コンパクトなまちづくりのマスタープラン」の策定（「住みよさ」を実現するための施策の推進計画，公共施設の再編計画等） | |

平成 24 年度特定地域再生計画策定事業の内容説明書

【テーマ：①-イ】

| |
|--|
| 1 事業（調査等）の名称 |
| <p>こそだ せだい す さくていじぎょう 子育て世代にとってコンパクトな住みよいまちづくりビジョン策定事業</p> |
| 2 事業主体の名称 |
| 竹原市（たけはらし） |
| 3 地域の課題等 |
| <p>(1) 人口や社会経済の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人口は、昭和 55 年国勢調査の 36,895 人をピークに減少し、平成 22 年調査では 28,644 人、高齢化率は 33.0%となっている。その要因は、出生数の減による自然減（補足資料 2）と、転出超過による社会減（補足資料 3）によるものであり、とりわけ、最近 10 ヶ年の社会減の平均は 180 人で、周辺の東広島市、広島市への転出が大きくなっている。 ○ 社会経済の状況は、積極的な企業誘致活動や企業との連携により、市内の工業流通団地への企業進出や、市内企業の設備投資などが行われている。一方では、農業・漁業従事者は減少し、商業においても、事業所数や販売額が減少しており、引き続き厳しい状況が続いている。 <p>(2) 地域課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 団塊世代をはじめとした元気な高齢者の活用と生きがいづくり ○ 就学前施設の統廃合及びその他公共施設の老朽化等の対応、遊休地の活用 ○ 若者世代向けの賃貸住宅や住宅用地などの住環境の整備 ○ 公共の子育て支援施策や各種施設、地域の英知や人材などの資源を最大限活用するための仕組みづくり <p>(3) 地域資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市街地内に、就学前施設、小・中学校、高校などの教育施設、医療施設、福祉施設、公園、商業施設などの居住関連施設が整備されている。（補足資料 4） ○ 住民自治組織をはじめ、NPO 法人、自治会、女性会、ボランティアグループなど、コミュニティ活動が盛んであり、地域の人材が充実している。 ○ 国の伝統的建造物群保存地区をはじめ、歴史・文化が今なお継承されている。 ○ 市街地は、海・山・川に囲まれ、農地も残っており、自然環境に恵まれている。 |
|  |
| 4 調査の作業フロー |
|  <pre> graph LR A[現況市街地の評価・課題整理] --> B[マスタープランの策定] C[「住みよさ」を実現するための課題整理・ニーズ把握] --> B B --> D[地域資源等] D --> E[地域ワークショップ等] E --> F[コンパクトな住みよいまちづくりビジョン策定事業] </pre> |

5 事業（調査等）の基本方針

平成21年3月に第5次総合計画を策定し、様々な施策を推進している。（補足資料5）
本ビジョンの策定に当たっては、「コンパクトな住みよいまちづくり」の観点から、改めて、対象エリアの課題等を把握するとともに、地域の人材、個性（歴史・文化、自然環境）、公共サービスなどを総合的に検討し、居住環境や公共施設の整備・再配置等も含めた包括的・効果的な取組の方向性を定める。

この中で、特に子育て世代を中心とする層の「住みよさ」の条件や「住みよさ」を実現するための具体的な方策について、ハード・ソフトの両面から検討する。

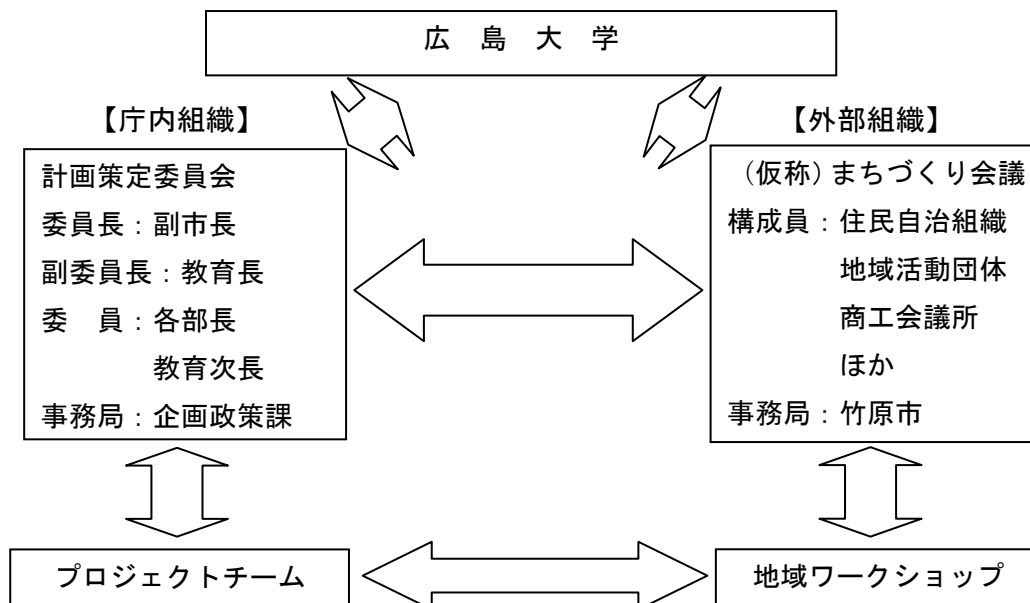
【実施調査等】

- 「コンパクトなまちづくり」に向けた現況市街地の評価・課題整理
居住環境の観点から見た市街地の現況評価
- 「住みよさ」を実現するための課題整理・ニーズ把握
アンケートにより、住民意識等の調査
- 「コンパクトなまちづくりのマスタープラン」の策定
現況市街地の評価・課題整理及び住民意識等を踏まえ策定

6 体制

計画策定委員会を実施主体とし、具体的作業に当たるプロジェクトチームを置く。
また、外部組織として、住民組織や関係団体等による「まちづくり会議」を設置するとともに、地域ワークショップを推進する。

広島大学（産学・地域連携センター地域連携部門）をアドバイザーとし、調査・分析等の作業を委託する。



7 事業（調査等）の内容

【実施調査等】

1. 「コンパクトなまちづくり」に向けた現況市街地の評価・課題整理
広島大学により、本市の現況や実施施策等の評価・課題整理
 - 市街地の人口等，経済活動等の推移と現状
 - 市街地の整備状況（基盤整備状況，土地利用・建物利用の状況（土地利用の動向，空き家・空地の状況，建物老朽度等），公共施設の整備状況・動向など）
 - 現況市街地に係る施策の実施状況と成果・課題の把握
 - 現況市街地の整備課題の整理

2. 「住みよさ」を実現するための課題整理・ニーズ把握
 - 居住環境整備，定住促進等に係る施策・取組み等の整理
 - 定住意向，定住のための条件等に関する住民意向調査
（特に，子育て支援施策，就学前施設，教育環境，住環境など子育て世代の意向）
 - ・調査対象：市民2,000人及び本市から通勤可能な一定規模の事業所に勤務する従業員のうち20～30代のいわゆる子育て世代
 - ・調査方法：市民・・・郵送
子育て世代・・・企業を通じて調査
 - その他，居住に関する関係者へのヒアリング等
 - ・調査対象：不動産業者，建設業者ほか
 - ・調査方法：対象者からの直接ヒアリング

3. 「コンパクトなまちづくりのマスタープラン」の策定
上記1・2の結果やワークショップ等を踏まえ，広島大学と連携し，外部組織及び庁内組織により検討，策定する。
 - コンパクトなまちづくりの将来像（土地利用，機能配置，歩行者ネットワークなどの方針，住みよさを実感するライフスタイルの将来像）
 - 将来像を実現するための具体的な施策の方針
 - ・基盤整備，公共公益施設，住宅供給等
 - ・多様な居住者に対応した「住みよさ」を実現する施策（公共サービス等）
 - 優先的に取り組むプロジェクト

4. 市民ワークショップ
上記1・2の結果を踏まえ，幅広い市民の意見，アイデアを聞きビジョンづくりを行う。
 - 地域の英知・人材などの地域資源を踏まえ，公共と地域が協働して行う，子育て世代にとってコンパクトな住みよいまちづくり
 - ・対象：市街地の住民自治組織，PTA，女性会，住民など
 - ・開催：5回程度開催

| 8 評価項目に対する内容 | | | | |
|-------------------|--|---------|----|----|
| 8-1 国策への寄与 | 子育て世代にとって最適な居住環境の創出を図るための、公共の施策と地域の人材など全ての資源を最大限に活用した効果的・効率的な取組を提案する。 | | | |
| 8-2 取組の駆性・モデル性 | 一定のエリア（徒歩圏）内において、自然環境や人材などの地域資源と公共サービスを有機的に結びつけ、住環境と公共施設の再配置等を総合的・一体的に検討し、交通手段に頼らないコンパクトな住みよい、環境に優しいまちづくり | | | |
| 8-3 多様な主体 | 広島大学をはじめ、商工会議所、住民自治組織など、産・学・官・民が連携した取り組みにより、施策の質の向上と整備コストの軽減、人材育成や地域の魅力・にぎわいづくりに効果が期待される。 | | | |
| 8-4 事業の熟度 | 平成17年度に「協働のまちづくり推進プラン」を策定し、地域の魅力づくりや人材育成を推進しており、住民のまちづくり意識は非常に高い。 また、現在、広島大学と連携し、庁舎等公共施設のあり方を検討しており、これと合わせて総合的・一体的に検討を行うことにより、より実現性の高いビジョンが策定される。 | | | |
| 8-5 その他 | 子どもの成長において、10歳で脳の機能がほぼ完成するといわれている。 子どもの人格形成で最も重要なこの時期を、地域資源をネットワーク化し、地域コミュニティを基盤とした人と人が行き交う「コンパクトな住みよいまち」で過ごすことは、子どもの好奇心や豊かな発想を引き出しながら、郷土愛に満ちた将来を担う人材に育つものと考えている。 | | | |
| 9 活用する規制の特例措置の内容 | | | | |
| | | | | |
| 10 スケジュール | | | | |
| 項目 | 年月 | 平成 25 年 | | |
| | | 1月 | 2月 | 3月 |
| 現況市街地の評価・課題整理 | | | ←→ | ←→ |
| 住民意識等の調査 | | | ←→ | ←→ |
| マスタープラン」の策定 | | | | ←→ |
| まちづくりビジョンの策定 | | | | ←→ |

| 11 事業費（調査費）の内訳 | |
|--|---|
| 経費の区分 | 内訳 |
| 委託料 7, 129, 500円 | <div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="background-color: black; height: 15px; width: 100%;"></div> |
| 経費計 | 7, 129千円 |
| 要望国費 | 7, 129千円 |
| 12 その他 | |
| <p>経済のグローバル化, 交通体系の高速化などにより, 人の経済活動が広域化する中で, 各自治体は特徴をもったまちづくりを行うことが求められている。</p> <p>行政コストや環境負荷の観点からも, コンパクトで質の高いまちづくりは, 公共施設のあり方や行政施策の展開方向の一つとして, 将来の地方都市のモデルとなる。</p> | |